



**Q** 赤ちゃんに一番大切なことは何ですか？

**A** 母子の一体感からくる安心感です。

首がすわらない生後3〜4カ月の時期が、子育てにおいて一番大切なときです。この時期にお世話をしてくれるお母さんとの間に一体感ができると、これを土台に、赤ちゃんのなかに「自分は守られている」という安心感が育ちます。

●自分への肯定感育つ

この時期の赤ちゃんは、お母さんが舌を出すと、それを見て舌を出すことがあります。無意識に反射的にしており、母子は一心同体なのです。

泣けば、「おなか为空いたかな」「気持ち悪いのかな」と、お母さんがやって来て、不安な要素を取り除いてくれ、赤ちゃんは気持ちよくなります。その積み重ねで、お母さんとの間に強い絆が結ばれ、「言わなくてもわかる」

れてしまい、それが、子育てをするお母さんの心を萎縮させるのです。

●親も子も共に育つもの

母性は女性が潜在的に持っているもので、赤ちゃんとの触れ合いを通して引き出されます。ですから毎日、繰り返しお世話が大事です。言葉が話せなくても、顔を見ながら名前を呼んで、話しかけるようにすると、赤ちゃんもしっかり聞いています。

赤ちゃんは、その愛らしい仕草で大人の視線を一身に集めます。守られるための天与の才

**Q** 早くから集団生活をしたほうが、社会性が身に付くのですか？

**A** まずはお母さんとの1対1の関係を築きましよう。

少子化から近所に遊び相手がいなくなり、早くから園に入れて友達に慣れたほうがいいのではないか、という考えがありま

という関係になるのですね。この体験が、赤ちゃんにはとても大事です。

母子一体感を通して、自分がこの世界に生まれてきたこと、存在していることへの肯定感が

**Q** 「三つ子の魂、百まで」と言われると、自信がありません。

**A** お母さんの母性は、ではぐくまれます。

昔からいわれる「三つ子」は数え年ですから、今でいう2歳です。0歳児、1歳児の育児の大切さを、こう言い伝えられたわけです。

この時期が大切なのはその通りですが、特別になにかしなければと考える人は、おもに技術的な才能を引き出すことに関心が向けられる傾向があります。

備えているのですから、お母さんが感じるままに、自然に育てたいのです。

わからないことをネットで検索し、パソコンと「相談」しているお母さんもいると思います。人と関わらないと、よけいに孤立してしまいます。情報収集はほどほどにして、目の前のわが子をよく見つめてみましょう。赤ちゃんの内側ではものすごい変化が起きています。昨日でできなかったことが今日できてお母さんをびっくりさせるでしょう。それがまた、お母さんにとって愛の刺激になります。

はぐくまれます。これが基本的信頼です。こうしたお母さんとの関係を心の基地にして、お父さんや家族、友達へと信頼のつながりが広がっていくのです。お母さんがいない場合は、特定の養育者が代わりを務めることになりま

す。けれども、もつと大切なのは、情緒的な心を育てることです。それが、芸事などに励むとき伸びしろをつくることになりま

**子供と触れ合うこと**

いまは情報が多いので、頭で考えると、むしろ子育てが難しくなります。赤ちゃんが泣いたらすぐ抱き上げなければいけません。もしなればならぬことに縛ら

●ワンポイント・アドバイス

お母さん(妻)が安心して子供に関われるよう、お父さんが早く帰宅するのも支えになります。

ずつたり、甘えたり、ときにはお母さんとぶつかり、感情をあらわさまに爆発させます。それをお母さんがなだめたり、すかしたりして、1対1の関係で受け止めてあげるから、基本的信頼が育ち、愛着が築かれるのです。そういう人がいて、子供は「思いやり」を知り、人への「思いやり」を学んでいきます。母親との安心空間を持てる子供は、日中、母親と離れても園で過ごせるようになります。集団生活はそれからです。急ぎ過ぎないようにして、わが子の安心空間をつくりましよう。